

C 協働学習 (C2)

主な学習活動

撮影したバトンパスの動画を使って、ペアやグループで改善点について話し合う。

1 本時のねらい

テークオーバーゾーン内で減速の少ないバトンパスをするための方法について、ペアやチームで確認したり、アドバイスしたりすることができる。

2 主に活用したICT機器・コンテンツ等

ファイル共有

静止画・動画撮影

3 参考にしてほしいポイント

動画を見ながら話し合うことで自分たちの動きを客観的に見たり、動きのポイントを確認する目を養ったりすることができる。

段階場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	チームでバトンパスの練習をし、その様子を撮影し、改善点について話し合う。	本時で大切にしたいポイントを絞ることで、チームや全体で共有しやすくする。 事前に手本となる動画を送信し、正しいバトンパスと自分たちのバトンパスを比較できるようにする。



チームでバトンパスの様子を撮影



今のタイミングはどうだったかな。

4 活用効果

タブレットを活用することで、肉眼では確認しづらい動きも1コマずつ確認することができた。また、繰り返し動画を見ることで、前時までの動きのポイントについても共有する場面が見られた。

5 アドバイザーからのコメント

動画を用いた振り返りの実践ですが、大きな学習効果が期待できます。振り返ることは、自己を知ることです。自己を知れば、次はどうしようかと工夫することができます。つまり、動機付けにつながるのです。それは指示されたものではなく、子どもたち自らの意思なのです。(東京工業大学 赤堀侃司)

ICT端末を活用する場面をあえて絞り込むことによって運動量確保をねらっている点が印象的な実践です。課題を共有する同じチームのメンバーが撮影を行うことによって、振り返りに用いる映像の視点が定まっていると考えられ、効果的な改善が期待できそうです。(福島大学 平中宏典)